

R4年度 区市町村ヒアリング結果の概要報告

ヒアリング概要

調査目的

- 区市町村における通いの場づくりの課題や支援ニーズについて把握すること

調査時期

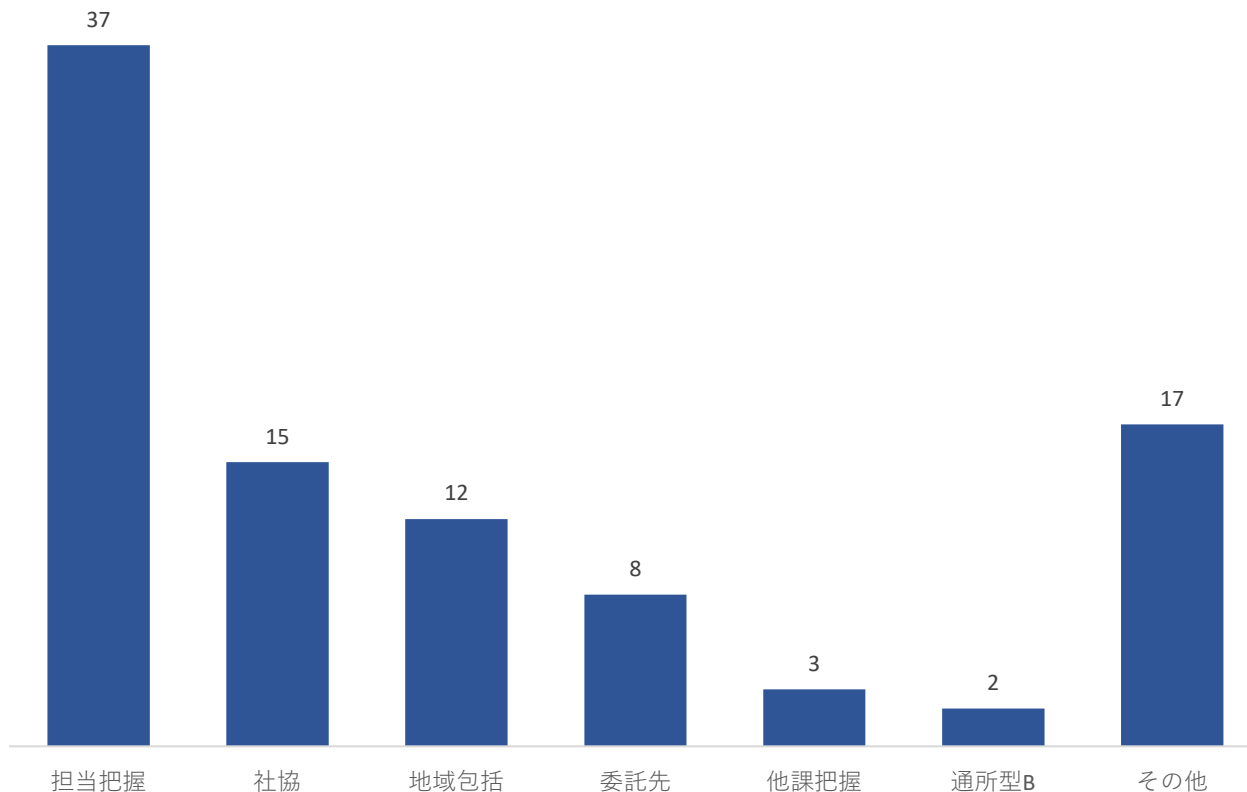
- 2022年6月～8月

対象者および調査方法

- 各自治体の介護予防担当者に対しヒアリングを実施した。
- 支援センター職員が記録したヒアリングの結果を基に、各質問への回答を整理、必要に応じてカテゴリー化した。

● 通いの場のカウント基準・方法

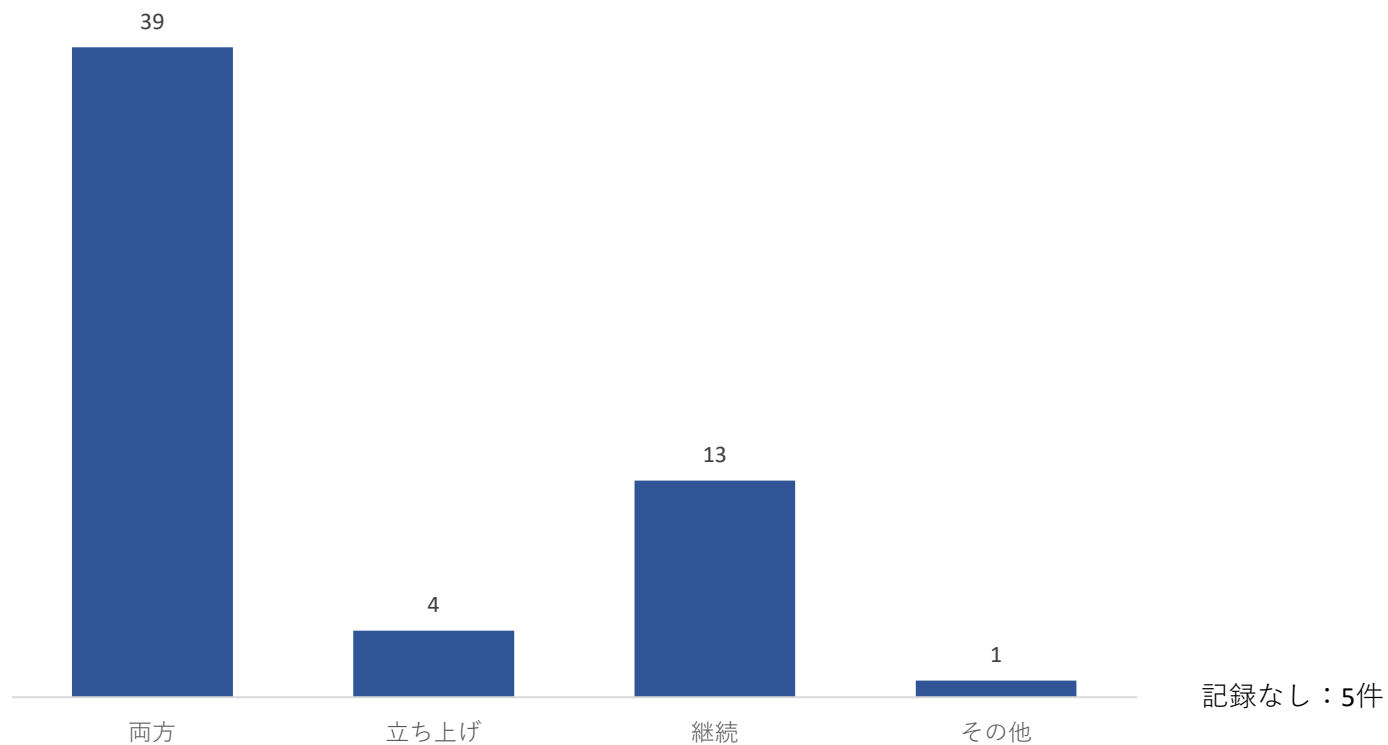
- 厚生労働省「介護予防・日常生活支援総合事業（地域支援事業）の実施状況（令和3年度実施分）に関する調査」において、どのように通いの場を把握したのか。
- 計上したのは、担当課が把握しているもの、社協のサロン、地域包括支援センターの事業で把握されているもの…といった記録を大きくグループ化して整理した。
- 1自治体が複数挙げている場合もある（例：担当把握+社協+地域包括を合計して計上）。
- 「その他」の中には、「通いの場はない（※島しょ部）」も含む。



記録なし：4件

●力を入れている支援方法

- どのような支援（立ち上げ支援、継続支援、立ち上げ・継続両方、その他）に力を入れているか。



●タイプⅢの現状と予定

- 現状として、「うまくいっている・工夫」、「課題」、「予定」を枠組みとして内容を整理。
※実態ではなく、担当者から語られた（聞き取ったものによって記録された）内容の整理。

●タイプⅢの現状としてうまくいっている・工夫

【通いの場の再開や増加、継続に関連した内容】

- ✓ 体操グループは再開しており、活動参加ニーズも高い。
- ✓ 4月からほとんどの場が開催可能。
- ✓ かなりの場が再開。
- ✓ 通いの場が増えている。
- ✓ 健康教室からの自主化で増加。
- ✓ 全体としては若干増加。
- ✓ 既存の団体には行政として支援。
- ✓ 体操にゲーム要素を取り入れるなど工夫して参加継続促進。
- ✓ 実施場所を探す必要のないウォーキングはうまくいっている。

【他機関や多職種との関係性、活動に関連した内容】

- ✓ 担当課は、部署間・団体間のつなぎ役に徹し、住民主体を保った支援ができています。
- ✓ 体験会からつなげていく方法は、生活支援コーディネーターがおぜん立てを行う。
- ✓ 補助金に地域リハ派遣を活用。
- ✓ PTを年1回程派遣して機能強化を図っている。
- ✓ 介護予防センターだけでなく、包括も日々動いており、立ち上げが進んでいる。
- ✓ ウォーキングの団体に包括が積極的介入。
- ✓ 講師派遣事業で町会などにもアプローチしている。

【通いの場へのアクセスに関連した内容】

- ✓ 通いの場をデータベース化し、検索しやすくしている。
- ✓ 外出支援バスの運行。

●タイプⅢの現状における課題

【実施場所の不足や開催場所の偏り（アクセス困難）に関連する課題】

- ✓ 通いの場の定義（人数・頻度）で実施できる場所がない。
- ✓ 開催場所がないこと。
- ✓ 高齢者施設が借りられないため活動休止団体がある。
- ✓ 場所の偏り。
- ✓ 交通の不便な地域がある。
- ✓ 徒歩圏内で通える場が少ない。

【通いの場が再開できない・増加しないといった課題】

- ✓ 数がなかなか増えない。
- ✓ 立ち上げは進んでいない。
- ✓ コロナの影響で休止しているグループがある。
- ✓ コロナ禍で貸し出し（？）がストップしているところがある。

【担い手や参加者の不足・少なさ、参加できない者がいることに関する課題】

- ✓ 参加したくてもできない人が出ている。
- ✓ コロナで体験会が延期になると忘れられる・都合が合わないなどでそのまま参加せずに終わってしまう人がいる。
- ✓ 参加者不足。
- ✓ 活動団体数が少なく。
- ✓ リーダーが減少しており、リーダー養成が課題。
- ✓ 住民数が少なく、担い手となる住民が出てこない。通いの場の立ち上げに課題。

【その他の課題】

- ✓ 既存団体で新規参加者を受け付けない団体が多い。
- ✓ 教室型を業者委託しているが、業者理解が乏しくうまく展開できていない。
- ✓ 包括が支援を行うが、入ってしまうと手が離れない。
- ✓ タイプⅢに準ずる場所は把握できていない。
- ✓ 通いの場を維持することで精いっぱい。

●タイプⅢの今後の予定

【成果物を増やすことに関する予定：

通いの場（立ち上げ）、活動場所、団体やグループ、担い手】

- ✓ 活動場所の増加。
- ✓ 通いの場増加（徒歩圏内に立ち上げ）。
- ✓ 心身機能グループの立ち上げで100歳体操を行いたい。
- ✓ 立ち上げについて今後検討。
- ✓ 2025年までに通いの場100か所。
- ✓ 今後も拡大していく予定。
- ✓ 新規団体の立ち上げ。
- ✓ 団体数増加。
- ✓ タイプⅢは、新規立ち上げのみを考えている。
- ✓ 立ち上げ支援を継続していく意向。
- ✓ 団体を増やしていく。
- ✓ まだ増やせるかなと思っている。
- ✓ 立ち上げ支援の促進。
- ✓ 推進員の増加に期待。
- ✓ リーダー養成講座受講者のリーダーへ期待。

【普及・啓発】

- ✓ 教室修了者への啓発。
- ✓ 体操の周知強化。

【通いの場の把握】

- ✓ 通いの場把握
- ✓ 通いの場把握
- ✓ 通いの場（？）の把握

【団体などを盛り上げる・支援】

- ✓ 休止中の団体への支援。
- ✓ コロナ禍で開催頻度のおちた体操を盛り上げていく。
- ✓ 困っている団体へ手厚いフォローを行いたいと考えている。

【維持や継続的に実施することに関する予定：

オンライン、通いの場（継続支援）、広報】

- ✓ オンラインなども開始しており継続予定。
- ✓ 通いの場普及の継続。
- ✓ コロナ禍で開催頻度のおちた体操を盛り上げていく。
- ✓ 補助金を活用して通いの場支援を継続。
- ✓ らくっちゃんの利用を継続する。
- ✓ 粹トレを行っている通いの場は継続してもらいたい。
- ✓ 委託で体操教室を継続。
- ✓ 講座のチラシを全戸配布しており、それを継続。

【新たな動きを加える・取り込む予定・希望】

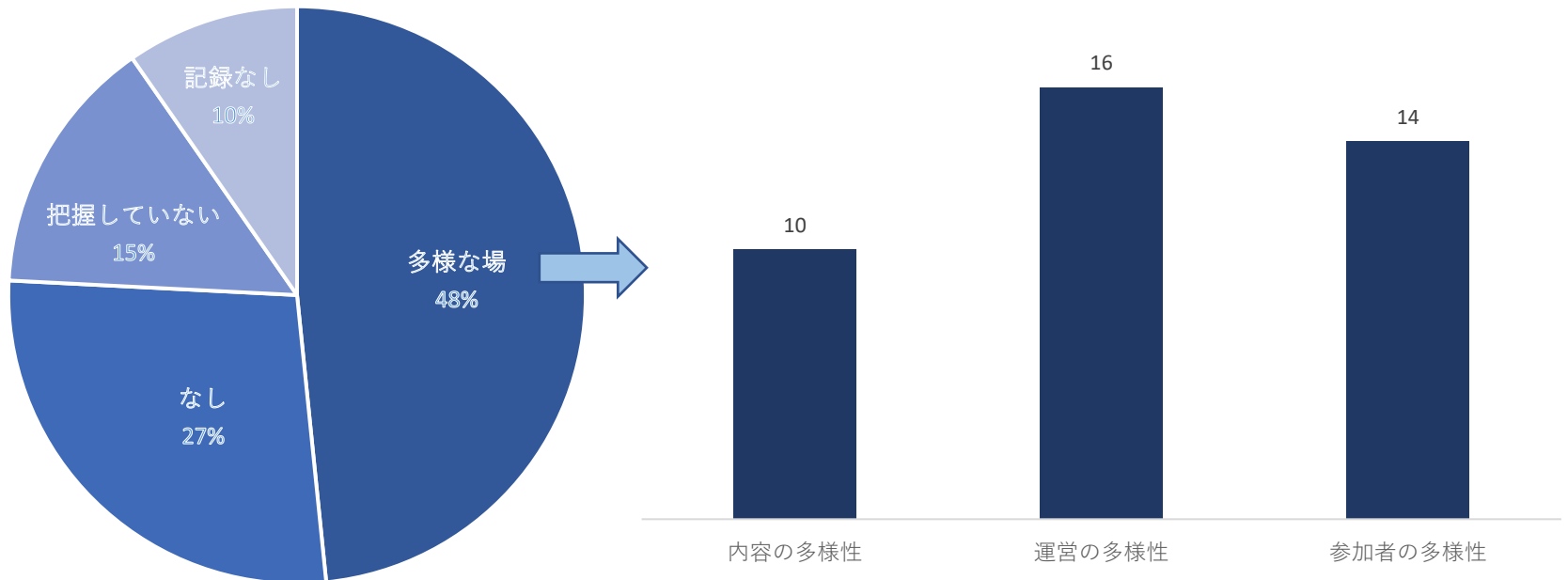
- ✓ 「筋力アップジム」の活動に若年世代を取り込みたい。
- ✓ オンラインの取り入れ。
- ✓ 試行的に行っている通いの場へ住民組織参入や体操、講座を行う。
- ✓ 口腔・栄養の要素を付加していく。
- ✓ フレイル予防推進リーダーが各通いの場に出向いて年一回程支援予定。
- ✓ 自主事業の立ち上げに意欲のある人を一般介護予防事業で対応する

【その他】

- ✓ 既存団体への新規参加者受け入れの働きかけ
- ✓ 屋外実施可能な町トレ改良版作成、自宅実施可能な新規プログラム開発。
- ✓ 心身機能低下者の取りこぼししない対応（地域ミニデイ、講座などで）。
- ✓ C型の受け皿になるようなつながり。

● 「多様な場」の状況

※多様な場は「運営、内容、参加者の多様性といったものを包含している」

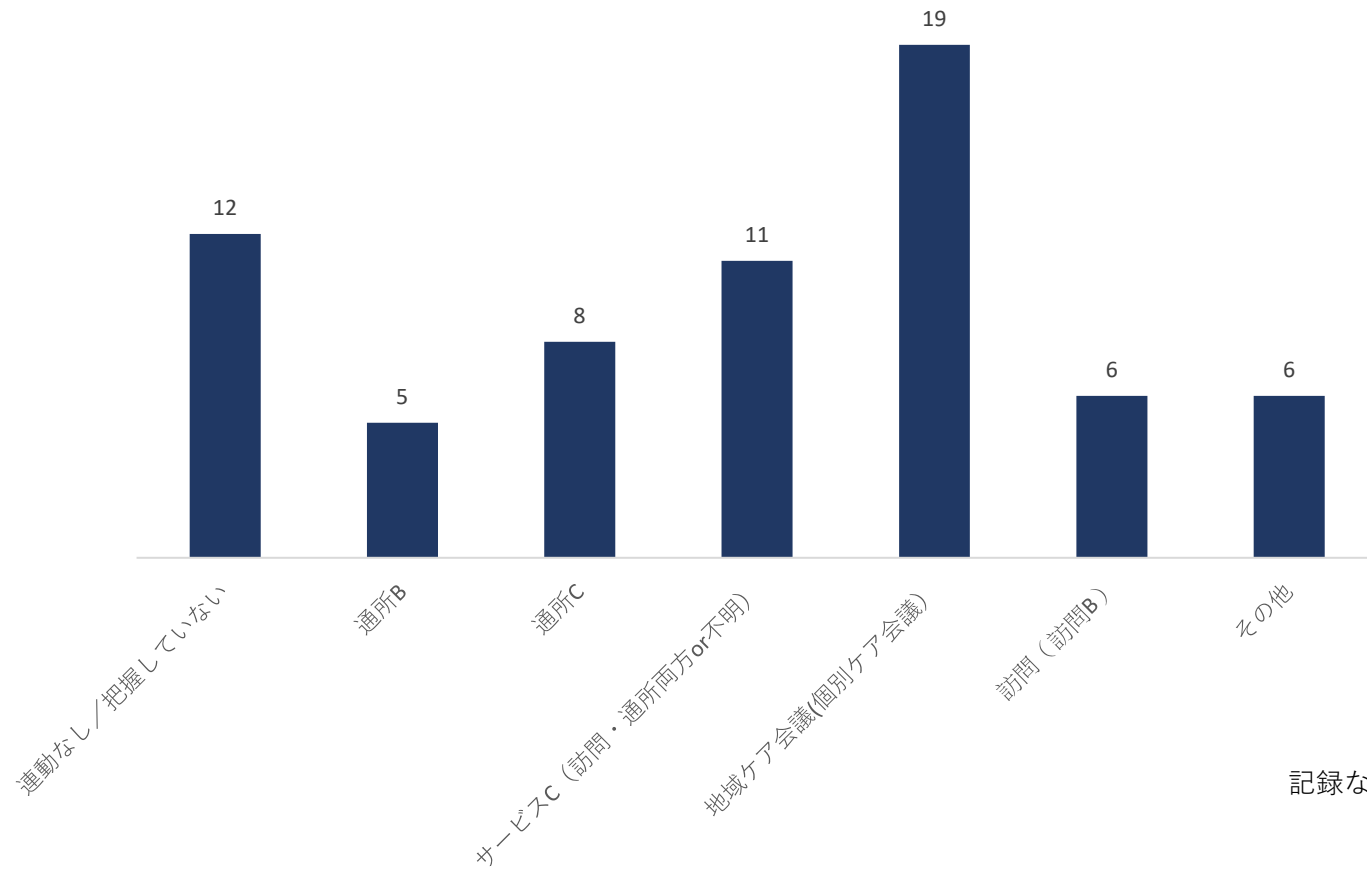


※「記録なし」は回答の入力のなかったもの。「なし」と同じと判断できるが、記録のために分けている。

※ 1自治体が複数あげている場合もある。

● 通いの場と他事業との連動について

- 1自治体が複数あげている場合もある。
- ヒアリング記録でよく挙がる他事業を大まかに分類し、それに該当したものをカウントした。



●オンラインを活用した通いの場

- オンラインに関する活動については、オンラインを活用した通いの場の現状についてほとんど記録されていない=あまり実施されていないという状況だった。
- 「オンラインを活用した通いの場がない理由」の記録のあった自治体では、“現場から必要性があがっていない”、“ニーズがない”、“対面の希望が多い”といったものがあった。
- その他、通いの場にはオンラインを使っていないが、運営者の打合せで使用しているというものもあった。

記録なし：6件

【オンラインから対面に戻す・対面を加える動き】

- ✓ 6月から対面に戻った場合も
- ✓ オンラインの通いの場は暫定で、今後はあまり使われないと考えている。
- ✓ オンラインはあるが、感染収束すると対面の希望
- ✓ 顔を合わせる事が大事なので、オンラインからハイブリットに戻りつつある。

【オンラインを継続する】

- ✓ 継続
- ✓ オンライン継続
- ✓ R3年より区主導でオンライン提供

【取り組んでいる最中】

- ✓ 実施サポートしている最中
- ✓ 養成中
- ✓ 浸透していない。対策：スマホ出前研修などの実施

【その他】

- ✓ オンライン教室を実施はしているが、立ち上がることはない
- ✓ 勉強会などを行っている団体がある
- ✓ 詳細不明（※あることは知っているが詳細は知らない）

● コロナ禍の影響（増減の背景）

- 自治体職員のとらえる、再開できる背景要因

【能動的な動きのある要因】

● 通いの場実施に対する意識の高まり（6）

交流の重要性認識、体力低下の実感、寂しさなど

● 内容の工夫（2）

※既存の活動を修正して再開したもの

（食事をしてきた活動で）食事を控える、外歩きをする

● 感染症対策の状況（3）

ワクチン接種の良好さ、消毒液など対策用品支給、感染対策に対する情報提供

● 通いの場活動外でのきっかけ（2）

連絡会の開催、活動以外のつながりを通じた要望（参加者からそろそろやろうかと声上がる）

● 開催頻度の工夫（2）

開催頻度を見直して2部制にする、分散させる

【受動的な要因（時間経過）】

● 利用していた会場の再開（2）

活動場所が再開した

● コロナの影響を受けにくい活動（3）

※既存の活動を修正せず再開したもの

飲食を伴わない活動が再開、写真を撮る趣味活動が再開

その他（4）

- 開催場所を確保できた

- 社協が積極的に支援した

- リーダー以外に主体的・能動的に動く人がいる

- （コロナへの）慣れ

※開催頻度が増えるため、運営者の負担が増加したという内容もセットで語られた

● コロナ禍の影響（増減の背景）

- 自治体職員のとらえる、再開できない・解散した背景要因

● 会場が使用できない・確保できない（18）

高齢者福祉施設、公共施設といったこれまで実施していた場所が使えなくなった

● 代表者の意向（5）

リーダーが感染した場合の責任をとれず、開催に踏み切れていない

● コロナに対する不安や慎重な姿勢（4）

コロナの不安や慎重な姿勢を取っている人が多い

● 家族に止められる（3）

家族から止められる

その他（9）

- 飲食を伴う内容
- 活動以外につながりがない
- コロナによる参加制限
- 人間関係の変化
- 参加者が他の場へ流出して消滅
- 民間団体が撤退

- 担い手がいなくなる
- リーダーの意欲低下や体調不良
- 高齢になった団体がコロナきっかけでやめる



※「通いの場がなくなったのは、コロナの影響だけとは言い難い」というコメントがあった。コロナの関連で担い手がいなくなるなど挙げたものの、コロナ以外の要因としても以下のような担い手不足に関する記録があった。

- ✓ リーダーが高齢化し、次の担い手がいない
- ✓ 中心人物が亡くなることで消滅

● 支援センターに対する要望

※特になし：6自治体

カテゴリー名（度数）
・具体的な内容例

他自治体の事例・情報を知りたい（13）

- ・他自治体の状況について情報提供
 - ・同規模自治体の優良事例
- ※事例としては、継続支援方法、失敗してしまうポイントなど多様

- ・メルマガでの好事例発信
- ・新しい取組が知りたい

オンラインに関する情報提供（3）

- ・オンラインの場に関する情報提供
- ・オンライン化にあたっての著作権などに関する情報提供

相談および助言（17）

- ・適宜相談させてほしい
- ※具体的な相談・助言は、立ち上げ、一体的実施、連携など多様

継続支援（9）

- ・今まで通りの支援
- ・引き続き、適宜相談させてほしい

講師または講師紹介（3）

- ・今まで通りの支援
- ・引き続き、適宜相談させてほしい

伴走支援（2）

- ・定期的な伴走支援
- ・伴走支援

初年度担当者支援（2）

- ・人事異動で担当が変わり、人の教育が続かないので知恵がほしい
- ・担当が新人のため、適宜助言

その他（6）

- ・教室型立ち上げのパッケージ化支援
- ・一緒に立ち上げをしてほしい
- ・住民の動機付け
- ・専門職（保健師・リハ職）人材派遣支援
- ・他機関との連携支援
- ・専門職向け勉強会
- ・調査情報の共有
（支援センター以外の調査含む）

評価方法・指標に関する支援（3）

- ※相談関係の「相談および助言」に含まれるが、事業内容に関連するため抽出
- ・評価方法や事業評価について相談したい
 - ・運動の効果評価指標について一緒に考えてほしい

- ・フィードバックの希望

研修における情報交換機会（2）

- ・オンデマンドだけでなく、会場型も再開させてほしい（研修後に情報交換もできる）
- ・研修で他の市町村との情報交換ができない

研修内容に関する要望（5）

- ・グループワークの時間が短い
- ・動機付けやコーチング
- ・専門職向け研修（2件）
- ・計画策定に向けた研修

研修の継続（3）

- ・今後も研修参加
- ・研修がありがたい
- ・引き続きいろいろな研修

【普及啓発】

【相談支援】

【評価・効果分析】

【人材育成】